

第6回
ATP
上方番組
大賞

Grand prix!

Excellence
Rookie!



関西製作者のモチベーションの向上を図り、若い製作者が
夢と誇りを持てる場を提供する事を目的として2013年に創設された
「第6回ATP上方番組大賞」(主催:ATP 旧称:関西ATP賞)受賞式が、
2019年1月29日(火)ザ・リツ・カールトン大阪で開催されました。
栄えあるグランプリ、最優秀新人賞は誰の手に!?

2019年1月29日

主催:一般社団法人 全日本テレビ番組製作社連盟
後援:大阪府/大阪市/公益財団法人 関西・大阪21世紀協会
助成:公益信託高橋信三記念放送文化振興基金

ATP

グランプリ&優秀賞

完全密着!命を救え! “ナニワ”の名医たち

製作会社:エー・ビー・シー リブラ 放送局:朝日放送テレビ

プロデューサー 丘 文奈(朝日放送テレビ)
プロデューサー 渡邊 拓史(エー・ビー・シー リブラ)
ディレクター 西尾 雅志(オプティモ)



優秀賞5作品からグランプリに輝いた作品に、ATP理事長福浦与一より賞状が贈されました。



＼受賞者コメント／

この度は、ATP上方番組大賞グランプリという名誉ある賞を頂きありがとうございます。
関西ローカル番組で密着モノ。限られた予算ですがディレクターが奮闘しました。
今後も面白い密着ドキュメンタリーを作ります!

エー・ビー・シー リブラ／プロデューサー／渡邊 拓史



グランプリ投票参加大学から

迫力ある密着映像に対して「どうやって撮影しているのだろう」といった驚きや、「現代医療の最前線が多角的に理解できる」丁寧な番組構成が投票理由として寄せられました。

審査講評

関西ローカルの16時台に放送された医療密着ドキュメンタリー。
時間枠から推測するに限られた条件の中で、取材対象との信頼関係を作り上げ、また見事にまとめられ称賛に値する番組でした。

最優秀新人賞 & 新人賞

小菅 翔太(MBS企画)

「住人十色 森の開墾からスタート!
家族で建てた7棟のログハウス」の演出

製作会社:MBS企画 放送局:毎日放送

プロデューサー 堀 素子(毎日放送)
プロデューサー 谷口 美希子(MBS企画)
ディレクター 小菅 翔太(MBS企画)



新人賞4名から最優秀新人賞に輝いたルーキーに、ATP理事・関西センター長森田道明より賞状が贈されました。



＼受賞者コメント／

ログハウスに魅せられた老夫婦と息子さん夫婦。そこにある暮らしぶりの楽しさを伝えたいとドラマ「北の国から」をリスペクトしオマージュ。

“欠点があるから人は光る”この言葉を1980年代から拝借し描きました。

MBS企画／ディレクター／小菅 翔太



審査講評

丁寧な絵作り、演出が取材対象者のログハウスへの思いを見事に表現されていました。
制作者の映像制作への思いが番組の隅々から感じさせてくれる秀作でした。

優秀賞

まちけん参上! ~あなたの街のおもしろ検定~ 日本橋 編

製作会社:クリエイティブ・ジョーズ 放送局:NHK大阪放送局

プロデューサー 大北 晶子(NHK大阪放送局) ディレクター 湯浅 耕二(クリエイティブ・ジョーズ)
プロデューサー 今村 一郎(NHKプラネット近畿)
プロデューサー 阿部 淳(クリエイティブ・ジョーズ)



受賞者コメント /

番組の主役である街の素人の皆さんをうまく描けたことを評価して頂き嬉しく思います。この賞を励みに視聴者はもちろんのこと、出演してくれた方にも楽しかったと言ってもらえる番組を作り続けていきたいと思います。
クリエイティブ・ジョーズ/ディレクター/湯浅 耕二

審査講評

毎回視聴者が問題を作成、構成されるレギュラー番組。街の問題を視聴者である学生が作成。それを見事にまとめ上げる構成力、編集力は評価に値します。職人技が發揮された秀作でした。

コトノハ図鑑 関西弁に秘められた真実~美しき大阪ことば編~

製作会社:MBS企画 放送局:毎日放送

プロデューサー 北野 弘(毎日放送)
プロデューサー 中口 康三(MBS企画)
ディレクター 阿部 淳人(MBS企画)



受賞者コメント /

映像化が難しい「言葉」というテーマ。アナウンサー室と制作チームが一緒に頭を悩ませながらつくる珍しい番組です。今後も在阪局ならではの切り口で「言葉の奥深さ」「言葉の面白さ」を伝えていきたいと思います。
MBS企画/ディレクター/阿部 淳人

審査講評

1984年にスタートした「アドリブランド」以来、毎日放送ならではのアナウンス室企画のレギュラー番組。番組では毎回、言葉の大切さを教えてくれますが、応募作は大阪ことばの持つ力を再発見させてくれる秀作でした。

宮根&辛坊言いたい放題! 読売テレビ開局60年 お宝映像スペシャル

製作会社:ytv Nextry 放送局:讀賣テレビ放送

プロデューサー 西川 義嗣(ytv Nextry)
ディレクター 小野 謙馬(ytv Nextry)



受賞者コメント /

開局60年を振り返る番組で栄誉ある賞を受けたのは、セットの背景に並べたテープ(=過去の番組)を作ってきた先輩方のおかげ。いずれは自分たちの手で、それを超えられるような番組を作りていきたいと思います。
ytv Nextry/ディレクター/小野 謙馬

審査講評

3000本の映像テープを使ったシンプルな美術セットが番組の全てを語ってくれたとも言えました。また、出演者の宮根、辛坊、中谷、3世代の思い出話、裏話がアーカイブ番組をバラエティ番組に昇華させた秀作でした。

LIFE ~夢のカタチ~ 海外SP! 幻の胡椒を復活させた日本人に蔵之介が密着!

製作会社:エー・ビー・シー リブラ 放送局:朝日放送テレビ

プロデューサー 佐々木 匡哉(朝日放送テレビ)
プロデューサー 岸岡 孝治(エー・ビー・シー リブラ)
ディレクター 京師 直樹(エー・ビー・シー リブラ)



審査講評

カンボジアでのボランティア活動からその地の復興の為に胡椒栽培を復活し、現地で頑張る倉田さんの夢を見事に描くとともに佐々木蔵之介のリポートも生かされた秀作でした。



受賞者コメント /

カンボジア復興のため奔走する男性。人生を掛ける夢が他国の復興。大き過ぎる目標と眩いまでの情熱。密着するほど魅かれたと同時にその人生を伝えたいと思いました。これからも夢追人の熱く輝く瞬間を描きたいです。
エー・ビー・シー リブラ/ディレクター/京師 直樹



特別賞

核の記憶

89歳ジャーナリスト 最後の問い

製作会社:ドキュメンタリー工房 放送局:BS12 トゥエルビ

プロデューサー 平岡 磨紀子(ドキュメンタリー工房) ディレクター 鈴木 昭典(ドキュメンタリー工房)
プロデューサー 向平 由子(ドキュメンタリー工房) ディレクター 下山 宏昭(ドキュメンタリー工房)
プロデューサー 佐々岡 沙樹(BS12 トゥエルビ)



審査講評

完成度の高いドキュメンタリー作品であり、89歳にして今なお現役として活躍されている鈴木ディレクターの姿に感動すら覚える秀作でした。



受賞者コメント /

肺炎で病床にあった鈴木さんにとって、この受賞は何よりの妙薬でした。受賞式の翌日、病室を訪ねBS12トゥエルビのプロデューサーが枕もとで賞状を読み上げました。その時、昏睡状態にあった鈴木さんがまばたきました。次の日、鈴木さんは夢見るようになくなりました。華やかなフィナーレでした。
ドキュメンタリー工房/プロデューサー/平岡 磨紀子

新人賞

佐々木 莉里(東通企画)

「はじめてのバースデー」の演出

プロデューサー 濱本 真治(東通企画) / ディレクター 佐々木 莉里(東通企画)



受賞者コメント

大好きなテレビの世界で働きたいという思いを持って飛びこんだ5年前。辛い日もありましたが、自分の存在を認めてもらえたような気持ちです。これからも取材者に寄り添った番組を作っていくたいです。

東通企画 / ディレクター / 佐々木 莉里

審査評

ミニ番組ではありますが、取材対象である家族、両親の子供への愛情を余すところなく表現し、そのきめ細やかな演出力は称賛に値します。

小浴 崇慎(メディアブルポ)

『ウラマヨ!「のれんを背負う覚悟!老舗を継いだ熱き社長さんの裏側』の演出

プロデューサー 高山 浩児(メディアブルポ) / ディレクター 小浴 崇慎(メディアブルポ)



©関西テレビ放送

受賞者コメント

自分の中でも、思い入れの深い作品で受賞出来て光栄です。この作品を作る中で、ディレクターの大変さと、面白さを同時に感じることが出来ました。取材先、並びに関わってくれたスタッフに感謝したいと思います。

メディアブルポ / ディレクター / 小浴 崇慎

審査評

取材対象者との密な関係から生まれた丁寧なリサーチが番組に生きられ、二つのテーマが共にバランスの取れた見ごたえのある秀作でした。

石川 彰(ytv Nextry)

『クチコミ新発見!旅ぶら 長崎・五島列島』の演出

プロデューサー 松本 洋平(ytv Nextry) / ディレクター 石川 彰(ytv Nextry)



受賞者コメント

仕込みから編集まで、悩み続けた作品。かえしの後、「いい回だった…」とCPに言われ、泣きそうになりました。その後、Qシートに間違いが発覚し怒られ、泣きました…。色々ありましたが、続けていて良かったです。

ytv Nextry / ディレクター / 石川 彰

審査評

丁寧でおかつダイナミックな絵作りが「五島列島」の魅力を存分に表現し、見たもの誰もが行きたくなる旅番組に作り上げられた力量は称賛に値します。

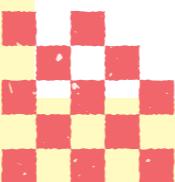
総評

あっぱれ!



「上方番組大賞」と親しみやすい名前に変えた関西ATP賞。第6回を迎えた応募作品は地上波に限らず、キー局系列外のBS局、そしてネットで配信された番組が含まれ、関西においても制作チャンスの広がりを感じさせてくれる多くの応募を頂きました。どれも秀作ぞろいではありましたが、今回はドキュメンタリー系の番組が豊作となり、改めて関西のドキュメンタリー制作の力を感じさせてくれました。また、情報バラエティー番組では洗練された演出力が発揮された番組が異彩を放っていました。今回から最終審査には関西でマスコミ・放送を学ぶ大学生、そして出版社にも投票にご参加いただきました。グランプリ作品の選出にはいつも以上に熱い視線が注がれ、今後の「上方番組大賞」に大きな期待が寄せられるアワードとなりました。新人賞も選考が難航するほど素晴らしい人材にあふれ、関西の番組制作会社の若い力がより光り輝くアワードへの成長を予感させてくれました。

森田 道明 (ジェイワークス代表取締役) ATP理事・関西センター長



■審査評執筆者

森田 道明 (ジェイワークス代表取締役) ATP理事・関西センター長

■審査委員 (五十音順)

審査委員長 森田 道明 (ジェイワークス代表取締役) ATP理事・関西センター長

審査委員 牛丸 善弘 (ブリッジ プロデューサー)

影山 貴彦 (同志社女子大学 学芸学部 情報メディア学科 教授)

端山 龍二 (エー・ビー・シー リブラー 制作部 統括マネージャー)

古川 綾子 (国際日本文化研究センター助教・上方演芸研究家)

■グランプリ投票参加大学、出版社

ATP関西会員社の他にも、下記の方々に参加いただきました。

関西大学 里見 繁教授 学生の皆さん

近畿大学 杉浦 徹教授 学生の皆さん

大阪芸術大学 松澤 真木教授 学生の皆さん

立命館大学 金山 勉教授 学生の皆さん

羽衣国際大学 村上 清身教授 学生の皆さん

KADOKAWA 関西ウォーカー 篠原 賢太郎編集長

